

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600155		
法人名	社会福祉法人ひとつの会		
事業所名	グループホーム自由の杜		
所在地	山口県防府市大字大崎801-1		
自己評価作成日	令和3年5月22日	評価結果市町受理日	令和3年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク	
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内	
訪問調査日	令和3年6月17日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である『喜怒哀楽』を基本に利用者一人ひとりの思いや個性を尊重し毎日が楽しく利用者と職員がお互いに笑顔で過ごせるように日々努力しています。さまざまな場面の中で役割があり、時には利用者の方同士が気軽に声をかけあい、また助け合いながら共同生活を送られています。今と言う時間を大切にし、季節に合った行事や外出行事を多く取り入れ楽しみがつねに溢れているホームを目指し時にはご家族と共感出来るように取り組んでいます。誕生日には利用者の希望に添えるように個別外出を企画し、日頃は共同生活だけれども、いつもと違った外出で開放感を味わってもらえと喜んでいただいています。また、ホーム内利用者全員でお祝いし、喜びは皆で分かち合えるように取り組みをおこなっています。利用者の方、そしてご家族の方、職員がしっかりと手を繋ぎながらハートのあるひとつの輪となり、もうひとつの『我が家』と感じていただける家作りを目指し、日々取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自治会に加入しておられ、利用者は日常的に事業所の周辺を散歩されて地域の人と顔馴染みになっておられます。事業所の前の道が地元の幼稚園児の散歩コースで、お互いに手を振りあって挨拶を交わしておられます。食事は、三食とも拠点施設の配食を利用しておられ、月1～2回は「昼食の日」として利用者の希望を聞かれて、事業所の菜園で採れた野菜(玉ねぎ、さつまいも、白菜、トマト、キュウリ等)を使って、事業所内で利用者と職員と一緒に食事づくりをしておられます。コロナ禍の自粛が続く中で申し訳、毎月の行事(うち輪づくり、敬老会、夏祭りでのヨーヨー、輪投げ、魚釣り、出店の買い物、クリスマス会、しめ縄づくり、忘年会、誕生会、新年会等)を企画しておられる他、事業所近隣の散歩や外気浴、畑の水やり、種まき、草取り、収穫を日常的に行っておられ、利用者全員で弁当を持ってリンゴ狩りや佐波川の鯉のぼりや芝桜見学、ドライブ(一の坂の桜、桑野山の桜見学等)の外泊支援をされて、利用者が張り合いのある豊かな毎日が送れるよう支援しておられます。県外の一家族から、外泊の要望があり、事業所と家族との連携を図られ、感染予防対策を十分に整えられて、自家用車の送迎で3泊4日の外泊支援を実現しておられるなど、家族の意見や要望を反映させて、馴染みの関係が途切れないように支援に取り組んでおられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 喜怒哀楽の実践の継続を行い、毎日表情豊かな日々を送っていただけるように努めている。毎月のホーム内行事や外出を企画し利用者とともに職員も一緒に楽しみ、喜びを分かち合えるように支援を行っている。ホーム周辺の四季折々の自然を感じ散歩をしたりしながら毎日笑顔の絶えない生活を送られるように支援している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念「喜怒哀楽」を事業所玄関に掲示し、月1回のミーティング時に話し合い、利用者ひとり一人が職員と一緒に、豊かな毎日が送られるよう、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の方にも馴染みある施設として、関係を築けるように努めている。年1回認知症講座を、昨年同様に、地区の公民館の高齢者教室で行い、顔なじみになった地域の高齢者の方々と意見交換を行った。また様々なボランティアの方や施設見学者など多くの方の来訪があり、閉鎖的にとらわれがちな施設ではあるが、交流の機会も多くなっている。毎年、地域の小中学校の生徒たちの職場体験を受け、ホーム利用者の方々と交流を深めているが、今年度はコロナ感染拡大予防の為中止となった。	自治会に加入し、日常的に事業所の周辺を散歩して地域の人と顔を合わせ、声をかけてもらい地域の一員として交流している。新型コロナの影響で、例年のような地域のボランティアや中学校の職場体験など、外部からの出入りは中止している。年末に地域の人と一緒に行っていたしめ縄づくりも中止し、利用者と職員と一緒に作成している。年1回、地域の公民館の高齢者教室で認知症講座を行い、地域の高齢者と顔なじみになっている。事業所の前の道が地元の幼稚園児の散歩コースになっており、お互いに手を振りあって挨拶を交わしている。事業所がこども110番の役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ認知症高齢者の理解を得られるように年1回講座を継続している。運営推進会議では自治会長、民生委員の方も交えて、毎回報告を行っているが、地域の状況や、問題など意見交換をし、何かできることがあればお互いが協力出来る体制づくりに努めている。入居希望のご家族が来訪時には、ホームリビングにて状況等の聞き取りを行っている。施設内の雰囲気、また入居者の方々の生活に触れていただき、悩み事など伺いながら、ホームでの支援の方法などの質問のお答えしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については、意義を理解し、毎年見直しを行いながら、現状の向上及び改善できるように努めている。日々の実践を振り返りながら、自分たちの実践している内容を、見直し各項目に記入している。	管理者は、職員全員に評価の意義について説明し、自己評価をするための書類と昨年の評価結果を配布し、ミーティング時に学んで各自が記入し、管理者がまとめている。前回の評価結果を受け、職員の入れ替わりや新人職員の加入により、事故発生時の応急手当や初期対応への課題が見つかり、それを身につけるため管理者が日常の支援の場でその都度具体的な指導を行なっているなど、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い毎回行事等の報告の他に、事故報告、ヒヤリハット報告の検証や、事業報告、事業計画など色々と報告を行い、意見交換を行っている。外部評価についてや日程及び内容、結果もその都度会議の場でご報告を行っている。	会議は、拠点施設と合同で年6回実施している。うち5回は新型コロナウイルス感染対策の一環として文書で開催し、会議のメンバーに資料と報告書(事業所の利用者の状況、ヒヤリハット、事故報告や行事業報告、事業計画)を送付し、意見交換を行なっている。合同開催で時間的な制約があり、地域メンバーの拡大やグループホームの家族の参加を含め、外部評価結果、参加者の意見の反映など、会議を活かした取り組みとしては十分とはいえない。	・運営推進会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの認知症に関する事業や取り組みなどには事業所として協力出来るように取り組んでいる。	市の担当者とは、運営推進会議の他、事業所の取り組みを相談する等して協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、新型コロナウイルス感染症の情報をタイムリーに得ているなど、法人を通して連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について法人研修、内部研修に学ぶ場があり、個々を見直す機会がある。また事業所のミーティングにて日々のケアの中で注意しなければならないことや気になる対応などについては意見を出し合いながら、スピーチロック等気づけるように取り組んでいる。定期的に自分のケアに関してのチェックシートを職員に配布し、自分を振り返り、理解を深める機会をもうけている。玄関の施錠等、グループホームとしてのケアのあり方を常に念頭において、事故対策を行う様に努めている。	職員は、法人研修(2回)、拠点研修(2回)で学び、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。拠点施設合同で身体拘束適正化委員会を設け、毎月の委員会に、事業所から委員が1名参加している。参加メンバーに、看護師、相談員、歯科衛生士、管理栄養士、作業療法士が入っている。3ヶ月に1回、自分を振り返り、ケアを見つめるためのチェックシートを配布し、スピーチロック等にも気づくことができるよう取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせず、外に出たい利用者には、職員が一緒に出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は法人研修、内部研修に学ぶ場があり、参加を行うようにしている。また各入居者の担当者が中心になり、意見を出し合いながら、その方にとって安心した生活を送られるように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での定期的合同研修や、法人の定期合同研修へ職員は参加をしている。また参加できなかった者に対してもミーティングの際に説明を行い、理解出来るようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、ご家族とホームにて内容等の説明を詳細に行いながら、疑問や不安を解消されご理解を得るように努めている。また長期にわたりホームでの生活を送っておられる方のご家族に対し、経済的不安や負担に対しても相談をしていただける関係性を持てるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には、相談や苦情に対しての受付体制を作り第三者委員や受付窓口の担当者を明示し、説明を行っている。意見や要望等は職員間できちんと話し合いながら、運営内容に盛りこんで行けるように努めている。個別での対応方法等月1回の報告書に詳細に記入し、現状状況を把握していただけるようにしている。意見などはしっかりと受け止め要望ばかりを聞き入れるのではなく、記録等用いながら説明を行い、ご本人の意向等お伝えし、納得されご理解いただけるように対応している。	契約時には、相談や苦情の受付体制、第三者委員や処理手続き等について家族に説明をしている。面会時や電話の他、毎月のお知らせに添えて担当者が利用者の状況(食事、排泄、入浴、コミュニケーション、休息移動等)を詳細に手書きし、管理者が暮らしぶりの様子が分かるように写真をA4にまとめ送付し、家族からの意見が出やすい関係づくりに努めている。家族からのケアに関する意見や要望はの意はその都度対応し、事業所のミーティングや申し送り時に職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、全職員に人事考課シートを配布し、提出後施設長と個別面談を行い、意見を話せる機会を設けている。また職員ひとりひとりに、委員会や外出行事やホーム内行事、昼食の日の献立など役割が有り、運営に携わりながらやりがいの持てる職場作りを心掛けている。職員が担当している利用者のケア方法など、担当する職員が中心となり、思いや個性が出せる機会を多く作るようにしている。意見や提案を様式に記入し職員全員で回覧を行い、改善及び工夫出来るように努めている。	月1回のミーティングの他、年2回、全職員が人事考課シートを記入して提出し、施設長と個別面談を行うなど意見や提案を話す機会がある。職員は委員会や事業所での役割(行事担当、昼食の日の他イベント係)があり、運営に関わっている。部署の違いから生じるケアの方法について意見や要望があり、その都度管理者が説明をしてケアに反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長はホームに立ち寄り、各職員と気軽に声を掛けられる時間を作り、話す機会を設けている。意見や希望を聞いたり随時相談は受けるなど、やりがいの持てる職場づくりに努めている。週1回の統括会議において現状を報告し、職場の問題点を報告し、具体的な改善対策等法人幹部などと話し合いを行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1日法人会議が行われ、様々な内容の研修を開催し、職員教育の場を設けている。併設施設との合同研修も行い、各職員のスキルアップに努めている。また外部の研修へは勤務の一環として多く参加させている。受講後は復命報告を提出し、他の職員にも回覧して情報共有を行っている。技術、対応法等はその都度職員同士で意見を出し、検討しながら身につけるようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、勤務の一環として受講の機会を提供している。認知症実践者研修会に1名参加している。受講後は復命報告を行い、資料を回覧して、情報を共有している。法人研修は毎月実施し、希望者が参加している。拠点研修は合同で、毎月法人研修と同様な内容(感染対策・食中毒予防・介護技術・腰痛予防、認知症、事故防止・リスクマネジメント・身体拘束(2回)、緊急について、高齢者虐待・ハラスメント、口腔ケア、感染対策、看取り介護、褥瘡予防)を作業療法士、歯科衛生士、看護師、施設長、相談員、職員が講師になり、全職員が受講できるよう工夫しているが、グループホームの職員として学ぶ内容としては十分とはいえない。	・事業所内の計画的な研修の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム協会の勉強会等、勤務として参加、また市や県などの研修会にも参加を推進している。法人内での研修会があり、同法人内の職員同士が、意見交換や交流を持ちながら、良き相談相手として共に向上していけるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には今生活を送っておられるところへ訪問したり、介護保険サービス利用の場に訪問し、生活環境を把握し、ご家族、関係者に現状を伺っている。、またご本人やご家族からの要望等、細かくお聞きし、入居前にスタッフ間で、情報共有を行えるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にしっかり情報収集を行い、必ずご家族にも思いやご要望を伺っている。職員は情報をしっかり目を通し心身の情報シートを作成、し早く安心して生活が送っていただけるように勤めている。面会の時間を特に決めておらず、夕食後でもご都合のいい時間にとお願いをし、どの時間帯でも来れることで、安心していただけるようにと考え継続している。ご家族へは、状況報告を密に行い、また希望や要望などを伺いながら、安心出来るホームと思っていただけるように信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報を、職員が共有し支援の内容を考え、対応できるように話し合いを行っている。その後サービス内容の変更が必要だと思われる時にはその都度ご家族には説明をし、今現在のご本人の状況を報告を行い、ご理解していただけるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの共同生活の中で、ご本人の出来る力を把握し、様々な役割を持っていただけるように支援している。利用者と職員が一緒に楽しめる時間を共有できるように取り組みを行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも、その都度ご家族にお伝えし、対応の変更も報告している。利用者様を支えていくために、今の現状を把握していただき、理解していただくことで、共に支えていく関係作りを構築できるように取り組みを行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に年賀状は、利用者様おひとりおひとりが、自筆で書いたり、印判やシールなどを貼り、個性あふれたお手紙を作成し出しているようにしている。、面会者にはゆつくりと、ご本人とくつろいでいただき、以前の思い出話が出来るように配慮している。また会話が弾まれるように、ホームでのご様子など、生活風景の写真を一緒に見られながら、職員も席を共にでき、お伝えできる時間を作るように取り組みを行っている。	コロナ自粛のため、面会は窓越しに行っていたが、見直して玄関先で距離を取って10分の時間制限を設けて実施している。面会には、家族(娘、息子等)の来訪がある。自筆の年賀状や電話での交流支援を行っている。利用者のその日の状況によりドライブスルーでのコーヒーを楽しむことや市内の馴染みの場所へドライブをしている。県外の家族から、利用者の外泊の要望があり、事前に1ヶ月間、家族に協力を得てコロナ禍の対策を十分に整え、自家用車の送迎で3泊4日の外泊支援を行っているなど、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにはそれぞれの方がくつろげる居場所があり、一緒に食事をしたり、洗濯物をたたんだり、野菜の皮をむいたり、貼り絵をしたり、ときと場面によって、色々な方と席を共にされ、関係を築かれるように配慮しながら、支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時には、アンケートをお渡しし、ホームに対しての意見をいただき、見直しを行う様に努めている。またご家族の方より、お便りをいただいたり、訪問された場合は、相談等以前と変わらない関係を継続している。他施設ご利用中であっても、状況によっては面会に行かせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との関わりを大切にし、利用者の思いや言葉などを記録し、職員同士で共有できるように心がけている。各入居者の担当者が中心となり意向に沿った1日の過ごされ方のリズム表の作成及び見直しも随時行っている。	入居前に面談を行って、生活歴や暮らし方の情報をアセスメント総括表に記録し把握している。日々の関りの中での利用者の様子を、利用者を担当している職員が中心になり一日の過ごし方のリズム表(事業所独自の24時間シート)を作成し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。職員間の情報の共有は、個人ボードや、業務日誌を活用している。把握が困難な場合は、家族などの情報を得て職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集を行い、日々の会話で、収集した内容などに関してなど、面会時にご家族、知人の方と会話に交じり、話を伺う時間を儲けるように努めている。また聞き取った情報を職員間で情報共有出来るように記録に残している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりに身体記録、経過記録があり、身体記録には食事(水分)摂取量やバイタルなど、身体の状況がわかるようにまとめてあり、ホームでの役割や1日をどのように過ごされたかや、個々のもてる力を記入でき、情報共有を行っている。1日の生活リズム表を基に1日何もされずに過ごされる事がないように日々支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に問題やケアの方法などを検討している。利用者の状況把握のためのシートなどを活用し、管理者(計画作成担当者)と担当者が話し合い、介護計画を作成している。また24時間シートを活用し、利用者様の現状に合う支援について話し合い、職員全員が理解し、ケアの統一が行えるように取り組んでいる。	計画作成担当者並びに利用者を担当している職員を中心にサービス担当者会議を開催し、本人や家族の意向、主治医や訪問看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月に1回、24時間シートを活用してミーティングを行い、3ヶ月に1回モニタリングを実施してカンファレンスを行い、期間に応じて見直している他、利用者の状態や要望に応じてその都度見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体記録、経過記録、申し送り予定表(24時間シート)、排泄表など利用者様の日々の状況を詳しく記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また、利用者様の日々の様子や変化を見ながら、既存のケアにとらわれず新しい取り組みを行えるように努めている。、ケアの方法の変更時などは、温故知新の書という書類を活用し、リアルタイムに実践をして経過を見るようにしている。書類は職員全員が回覧をし意思疎通が出来るように努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、職員同士の連携で優先順位を考えながら、支援を行っている。業務の改善案、ケアの改善案を、その都度スタッフが発案や提案し、確認の上、変更しその後の経過も見ながら取り組みを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開所より毎月手芸ボランティアの方も継続してきていただけ、利用者の方と顔なじみの関係ができ、楽しみの一つにもなっている。お祭りの時など様々なボランティアの来訪もある。併設の特養の入居者の方々と一緒に参加し、地域の中で楽しみが増えるように支援をしている。今年度は、コロナ感染拡大予防のため、中止とせざる状況となった。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のかかりつけ医が2週間に1度、訪問診療で直接利用者お一人おひとりを診察され、職員が立会い日々の状況を報告、相談を行い、指示または服薬の調整を行っている。必要時には紹介状で専門医の受診を行っている。訪問看護師の定期訪問も週1回あり、職員からの相談に対し、状況に応じた注意点や介助法などアドバイスをしてもらっている。必要な時にはかかりつけ医に報告を行っている。訪問看護記録に残し、職員全員で回覧をしている。夜間緊急時にはかかりつけ医また訪問看護へ連絡を行い、利用者様が適切な医療を受けられるような体制になっている。	利用者、家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療がある。受診時には職員が立ち会い、利用者の状況を伝えて往診記録に記入し、職員間で共有している。他科受診は、家族の協力を得て職員が受診の支援をしている。歯科は、希望に応じて訪問診療がある。口腔ケアは、年3回拠点施設の歯科衛生士に依頼し、指導を受けている。訪問看護師の定期的訪問が週1回あり、訪問看護記録で回覧し、職員間で共有している。夜間緊急時にはかかりつけ医や訪問看護師に連絡を行ない、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1回訪れ、職員からの報告、相談を受けている。記録物に目を通し、意見やアドバイスを職員に直接話したり、また記録に記入し残し、職員全員が共有出来るようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際にはホームでの生活の状況や身体状況など細かな情報提供を行っている。入院中も何度かご本人の面会を行い状況を把握できるように努めている。退院前には入院中の状況や、今後の注意点を担当医または看護師に情報提供をしてもらえるようお願いをし、ご本人が退院後に、以前のように安心でき、安新出来るホームでの生活に活かしていけるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合についてホームの指針をもとに説明を行っている。また状況にあわせ、その都度新たにご家族とは、今の状況で医療との連携を行いながら、どのような方針で進めていくのかなど話し合いを行っている。毎月状況は詳細にご報告をしていきながら、ご家族の方にもご協力頂けるように取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における対応の指針について」に基づいて家族に説明し、「看取り介護に関する同意書」で意向確認をしている。重度化した場合は、早い段階から家族の思いを聞き、主治医や訪問看護師と医療機関や他施設の移設、看取り等について話し合い、方針を決めて共有し支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時には、報告書に詳細に記入し、その日のうちに職員で話し合い対策または改善が必要ならすぐに行い、再発防止に努めている。また全員に回覧をし共有を行っている。家族にも報告を行い、対策についても説明させていただいている。ヒヤリハット報告書も事故を未然に防ぐために活用しなければいけないことなど定期的にミーティングで説明し話し合いを行っている。日中、夜間緊急時の対応についても定期的に見直し再確認をおこない、対応法を話し合っている。訪問看護師の訪問の際にも手当、また対応法などその都度指導を受けるように努めている。	事故やヒヤリハットが発生した場合は、その場にいた職員が書類作成の後、2回(9時、15時30分)の申し送り時に報告している。月1回のミーティング時には、職員間で話し合い、再発防止に取り組んでいる。訪問看護師から、利用者の状態に合わせての緊急時の対応や手当について口頭でその都度指導を受けているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との合同で年3回利用者様、職員参加で避難訓練を行っている。昼夜の火災想定や風水害の場合の避難訓練、避難経路の確認、通報訓練を行い、毎回見直し反省を行い次の訓練に活かせるように取り組んでいる。運営推進会議の際に報告を行い意見を伺いながら協力体制を構築できるように努めている。	災害時に備えた「防災マニュアル」や「消防計画」を整備し、年3回、拠点施設と合同で昼夜想定火災時・風水害の避難訓練を利用者、職員が参加して実施している。事業所独自では「火災専用通報装置」の訓練を年4回、ミーティング時に事業所を火元と想定し実施している。緊急連絡網には自治会長や民生委員が参加しており、地域との協力体制を築いている。備蓄の食料品(嚥下食や普通食を含む)や防災用具は確保しており、定期的に更新している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者との関わりを大切にし、利用者の思いや言葉などを記録し、職員同士で共有できるように心がけている。言葉かけに関してもご本人が不快な思いをされないようにその時の環境や状況に合わせた対応を行うように努めている。各入居者の担当者が中心となり意向に沿った1日の過ごし方リズム表の作成及び見直しも随時行っている。	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる言動や対応については、職員同士で注意したり、管理者が指導している。個人情報の取り扱いに注意し個人記録物は鍵のかかる保管庫に適切に保管している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日お茶や飲み物はお好きなものを選んでいただいたり、入浴も声かけをし、今日はどうされるのかはお伺いをしている。余暇の過ごし方も何をされたいのかお声をかけ、希望に添えるように支援を行っている。職員は1日の中で何度か選択される機会をもうけ、お一人おひとりの思いを汲み取れるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、今日の予定をボードに記入し、希望があれば記入している。職員は、その日の状況に合わせてチームで取り組み希望に添えるように、支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際に、必要な生活用品または、衣類などはご本人の希望も伺い購入を行えるようにしている。活動着や寝巻きは、御自分で見て好みのものを選んで着ていただくように努めている。また、月に1回美容院の方に来ていただき、ご本人の希望に添えるようお願いをしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々は厨房より食事は提供となっているが、月に1. 2回は昼食の日として、ホームでお一人おひとりの日頃から伺った意見や、希望も入れながら、担当者が献立を立て、食事作りを行っている。野菜の皮むき、卵割りなど役割を持っていただき職員と一緒に昼食をつくり、一緒に食卓を囲み楽しめるように企画を立案している。また昼食の日に限らず、季節のものを美味しく食べるために、畑を作る方、手入れを行う方、収穫される方、など役割を持っていただきながら、畑から採れる野菜を使って、おかずやデザート作りを行ない出来る事は利用者の方も一緒に行えるように支援している。	食事は、三食とも拠点施設の厨房からの配食を利用している。月1～2回は「昼食の日」として、利用者の希望を聞いて事業所の菜園で採れた野菜(玉ねぎ、さつまい、白菜、トマト、キュウリ等)を使って、事業所内で食事づくりをしている。利用者は、野菜の皮むき、包丁を使って切る、火加減を見る、食器洗い、配膳・下膳、テーブル拭き、茶碗拭き等、できることを職員と一緒にしている。利用者は職員と一緒に同じテーブルを囲み、食事が楽しめるよう工夫している。おやつ作り(おはぎ、桜餅、フレンチトースト、たこ焼き、ホットケーキ等)、行事食(開設記念弁当、お花見弁当、子供の日のランチ、敬老の祝膳、お節、お雛祭り等)、誕生日のケーキ、夏には室内で9mのソーメン流しを楽しむなど、食べる楽しみを工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体記録には1日の食事摂取量や水分摂取量を記入し把握出来るようにしている。同敷地内の特養管理栄養士にも相談を行い体調や食事の状況の変化に合わせ、食事の形態や食事量の検討し、変更を行ない、経過を見るようにしている。水分量にも常に気を配りながら、随時お勧めをし補えるように努めている。また夜間にも、お聞きし水分をお出しするようにしている。またかかりつけ医の訪問診療の際に報告、相談も行い意見をいただくようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け誘導や見守り、入れ歯の洗浄や消毒等も行い、口腔内の清潔保持に努めている。定期的に同敷地内特養の歯科衛生士の訪問もあり、口腔内の痛みまた入れ歯の不具合等利用者の方より訴えがある場合は、協力医療機関の訪問歯科診療を受けるようにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1日の排泄状況を一目でわかるような記録にし、個々の排泄パターンを踏まえながら、声掛け誘導で汚染を防げるように、支援を行っている。トイレでの排泄が行える事が、不安解消につながる事と考え、スタッフが会話からだけではなく、個々の表情や行動を理解できるように努めている。おむつに関しては自己負担ということ、スタッフ全員が理解しており、適切な使用方法を随時検討し、使用量削減の取り組みを行っている。	1日の排泄状況が一目で分かるように工夫した記録表を基に、一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に応じた声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を確認し、水分はお茶ばかりではなく、便通の良くなるおやつや飲み物などを提供している。毎日体操は食前に行い、室内レクなど体を動かすことに参加していただけるよう毎日の日課として、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前、午後、また時間や順番は特に決めておらず、安全に行えるように考えている。お声をかけ承諾いただき、毎日希望されなくても入浴していただけるように努めている。	入浴は毎日可能で、入浴時間は特に決めず、利用者ひとり一人の希望やタイミングに合わせてゆっくりと入浴できるように支援している。入浴剤を利用したり季節の柚湯をして楽しんでいる。体調に応じて部分浴やシャワー浴、清拭等の対応をして個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室 リビングでの休息は、お一人おひとり自由に好きな場所でくつろいでいただけるようにと考えている。夜はゆっくり横になっていただけるようにし、時間を見て居室へ訪室し、睡眠の状況の把握し、お一人おひとりの生活習慣を崩されないように支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が次の日の薬セットの役割を持っている。薬に関しての情報のファイルがあり、薬の目的、用法、容量などを目で見える機会があることで、職員が入居者の方の病状を理解しながら、その方の変化や状態の確認を行えるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの1日の生活のリズムを考え、何事もスタッフで行わず役割が持てるよう支援している。今日の予定などを一緒に考え、楽しみが持てる関わりが出来るように努めている。毎月の行事予定を掲示し、外出や一緒に調理を行う昼食の日など、楽しみ事が多くなるように支援している。またお若い頃的生活歴をご家族から情報収集を行い、生きがいづくりに役立てるように支援している。	畑の水やり、種まき、収穫、タケノコ堀り、草取り、モップかけ、音読、カラオケ、コンサート、ラジオ体操、歌に合わせた体操、口腔体操、トランプ、カルタ、百人一首、脳トレ(計算・漢字・間違い探し)、書道、ぬり絵、切り絵、ちぎり絵、押絵、毎月の行事(うち輪づくり、敬老会、夏祭りでのヨーヨー、輪投げ、魚釣り、出店の買い物、クリスマス会、しめ縄づくり、忘年会、誕生会、新年会等)、周辺の散歩など、日々の楽しみ、気分転換、生活の張り合いとなるような場面づくりを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて、施設外への散歩を希望に添えるように努めている。また誕生月にはスタッフと事前に話し合い、希望に添える個別外出をしていただいている。買い物の日として、ホームで使うものやご自分が買いたいものなどを購入していただく機械を設けている。外出行事は、見慣れた懐かしい場所、また今しか行けないところなどを企画し、事前に問い合わせご協力いただけるようお願いをし、利用者の方々に負担なく楽しんでいただるように努めている。今年度は、コロナ渦のため、なかなか思い通りの場所に外出出来る状況ではなかったが、ドライブのみであったり気分転換の散歩を行えるようにつとめた。	コロナ禍で外出行事を控える中であって、天候に合わせて事業所近隣の散歩や外気浴、畑の水やり、種まき、草取り、収穫を日常的に行っている。誕生月には利用者の希望に沿った個別外出の支援を行っている。買い物の日として事業所で作る「昼食の日」の材料の買い物に、職員と一緒に رفتり、利用者全員で弁当を持ってリンゴ狩りやサバ川の鯉のぼりや芝桜見学、ドライブを兼ねて一の坂川の桜、桑野山の桜見学等、できるだけ外気に触れることを企画し、外出支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事では、昼食に御自分で好きなメニューを見られ、選んで食べていただいたり、生活に必要なものや新しく購入が必要なものなどは、誕生日個別外出の時に、御自分で好みにあった品物を選ばれ、購入していただるように支援を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にご理解をいただき、利用者様がご希望があれば、電話はかけさせていただけるようにご協力していただいている。また年末にはご家族に自筆で、また難しい方は印判やシールなどを利用し年賀状を作成していただき、返事を楽しみにされるように取り組んでいる。敬老の日のご家族に手紙をお願いし、当日ご本人にお渡しし、読んでいただくことを行っている。お手紙や絵葉書などは、居室に飾り、目に入るように工夫している。今年度は、コロナ渦の為、ご家族様からの電話が多くあり、入居者様が落ち着いてお話しが出来るような場所作りを行った。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節を感じていただけるように、飾り作りや壁画を利用者同士共同制作を行い、1ヶ月ごとに室内の装いに变化を持たしている。居心地よくくつろげるために、共有スペースの家具の配置やソファの位置等、安心出来る雰囲気作りを工夫している。	利用者が居心地よくくつろぐことができ、安心して移動ができるように、手すりの位置や共有スペースの家具やソファの配置等工夫している。壁面には、毎月利用者が職員と一緒に作成した季節に応じた作品が飾ってあり、季節を感じるができる。家族から花の差し入れがあり、季節の色を添えている。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごすことができるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの席は特に決めておらず、気の合う方とお好きな場所で過ごされることができ、気分転換にソファや椅子も多く設置している。また集団レクや創作活動等ではテーブルの配置を変え、1つのテーブルに集まれるようにし、交流が持てる工夫を行っている。一人になりたい時にも、ご自分で行きたいところに移動されるように手すりの位置などを考えながら居心地のよい空間づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、ご自宅より持参された馴染みのものを配置して、お一人おひとりの生活のしやすい環境を個別で検討している。またお好きなものや作品などを目に付く場所におけるようにしている。居室にも写真やカレンダーを飾り、ご自分のお部屋に愛着が持てるように工夫している。お一人おひとりの個性を活かし過ごししやすい居室作りを心掛けている。	利用者が使い慣れた、ダンス、机、椅子、衣装かけ、鏡台、化粧道具、テレビ、仏壇、位牌、佛具(お茶搭)等を持ち込み、カレンダーや家族の写真、人形やぬいぐるみを飾って、本人が安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様各々の、できる力を発揮していただけるように、身体状況に合わせたテーブルや椅子の配置を考え随時変更を行いながら工夫している。また、必要な福祉用具等の検討もしながら、安全に生活を送られるように支援を行っている。出来る事、出来ない事は職員一人ひとりが把握し、出来る事は見守り、できないことは声かけをしながら、一緒に行い、必要な支援を行う様に努めている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム自由の杜

作成日: 令和 3 年 11 月 10 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	入居様様の急変時に的確な対応が全スタッフが できる事は、現時点では難しいと思われる	全てのスタッフが緊急時の対応法について 適切な対応ができるように学習し、日々の業 務に活かせるようになっていく	応急手当や初期対応の定期的訓練の研修を 行い、迅速な対応を全ての職員が行えるよう していく	1年間
2	14	職員を育てる取組みでは、毎月1回法人会議が 行われ、様々な内容の研修を開催し職員の教 育の場を設けている。併設の合同研修も行い 各職員のスキルアップに努めているが、今年度 においては例年通りの取組みとは至らなかった	各職員が法人の理念を理解し、学び合い専 門性を高めていく	事業所資料に基づき管理者の指導の下、働き ながら学べるように支援する。毎月のミーティ ングを活用しながら認知症の理解を深めて、実践 に繋げる。外部研修の情報を職員に伝え勤務 の一環として受講の機会を提供し、各職員のス キルアップへと繋げる	1年間
3	5	運営推進会議は、併設の特養にて年6回実施し ているが、新型コロナウイルスの感染対策とし て文書で開催し会議メンバーに資料報告書を送 っていたが十分な意見交換ができなかった	事業所取り組み内容や具体的な課題を話し 合い、地域の理解と支援を得るために、メン バーの人々が積極的に関わられるように働き かける	地域メンバーの拡大やグループホーム家族様 の参加者を拡大し、得た情報を反映する	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。